2023 12/12 第90号

ふくしま 再生 短信

試験栽培からの十二年を想う

お米収穫 手刈り・はせ掛け・脱穀

2023年11月2日、佐須の菅野宗夫さんから同報メールで嬉しい知らせ。宗夫さんの厚意により収穫の一部を伝統的作業で実施したのだ。「小原さま　先日は手刈り稲刈り、そして足踏み脱穀お疲れ様でした。自然の恵みをいっぱい受けた、はせ(ざ)掛けの稲は旨さを増してきたためか獣達も一部を横取り食していたようですが、無事脱穀出来たことに一安心でしたね。

お世話になったみなさん：5月の田植えには、東大大学院農学生命科学研究科・溝口研究室と東大むら塾の皆さんが参加。秋のはせ掛け・脱穀には、健康医療ケアーの松田さん・アートによる村興しの矢野さん、里山再生・ワイン用ブドウ栽培・モニタリングの北原・高木・小原の面々、籾摺りの後の精米は田尾さんと矢野さん、東京でも、サークルまでいのメンバーが籾摺り・精米をしました。また健康医療ケアーチームは出来たお米をおにぎりにして、健康がいちばんの集いで村のお年寄りの皆さんに食べてもらいました。

籾摺りに関しましては一任させていただき嬉しい限りでしたが、4日に合わせての協力者を探すのには一苦労でした。しかし、その人が見つかり今日2時から実施出来たことは、ひとえに協力していただいた方に感謝でしかありませんし、大切にしていかないといけないなぁそんな気持ちです。（後略）」。

米作りは半年間の真剣勝負。代掻き（しろかき）の基本作業（写真1）を終え田植えで美田スタート（写真2）。5月の初夏から盛夏へ、長い草取り作業が続く（写真3）。10月、防獣ネットで守られた黄金色の美田が現れる（写真4）。はせ掛け（写真5）に脱穀（写真6）にみなさん大活躍。

ここでひとりの恩人を挙げたい。2012年に始まる試験栽培が農政の厚い壁にあたり行き詰まっていたとき田尾さんが出会った、三輪睿太郎（みわえいたろう、元農水省技術会議会長・独立行政法人農業技術研究機構理事長・他歴任）さん。試験栽培は三輪さんの言う「農研機構との共同研究」の形で実現した。まことに味わい深い佐須米（写真7）をいただきながらあためてご恩を想起したいものである。

（写真提供・菅野宗夫さん、文責・若林一平）

2023年12月3日、飯舘村交流ふれあい館で古居みずえ監督『ぼくたちは見た』の上映会が行われ、村内外から70人近い人びとが集まり映画を鑑賞しました。飯舘クリニック本田徹医師の発案で飯舘村ともご縁が深く、「飯舘村の母ちゃんたち」などの秀作を発表してきた、フォトジャーナリストの古居さんが、長年にわたるパレスチナ取材から、あるガザの一家の子どもたちの眼から見た、封鎖と占領の中で営まれる難民の生活を描いたすぐれた作品。主催：認定NPO法人ふくしま再生の会 協賛：訪問看護ステーションあがべご、長田整骨院、いいたてクリニック。

（報告・田尾陽一さん）